

## 事例1

何でも言い合える職場環境  
風通しの良さが管理職を育む気負わず打ち込み  
パートから3年で課長に

「夫がツクリダスへ転職し、毎日楽しそうに仕事に行くので、『私も働きたい!』と自分から夫へ猛アピールして社長に話してもらいました。パートからスタートしましたが、自分らしく働いていたら最速で社員に(笑)。スタッフ同士が気軽に声を掛け合い仕事に取り組んでいて、社長にも冗談を言えるフラットな環境です」

【角野さん談】野口は入社1カ月で正社員になり、3年後には会社のナンバー3の課長に昇進。今では我が社にとって欠かせない存在です。

企画開発部 課長  
野口侑李さん代表取締役  
角野嘉一さん個性を柔軟に受け入れて  
誰もが働きたくなる町工場

「役職に関係なくコミュニケーションできる環境をつくること、仕事を見える化して情報共有することで、人間関係も仕事の効率も飛躍的に改善しました。野口は弊社がめざす『笑える職場づくり』と『ジェンダー平等』を体現する社内きってのムードメーカーです。男女一緒にしなければと考えがちですが、違いを前向きに捉えるからこそ男女平等であると考えています。個性を柔軟に受け入れたら、人と笑顔とアイデアが集まる面白い町工場になりました」



## 日本ツクリダス株式会社

「働きたくなる、マネしたくなる町工場をツクリダスをスローガンに、SDGsに取り組む町工場。金属雑貨「Ironi-dea(イロニデア)」製造など、枠にとられない仕事でも注目される。」

自分らしく  
働き続けるためにBe  
Yourself  
To  
Continue  
Working皆さんは  
思い当たり  
ませんか？

「結婚しても、子どもが生まれても、今の仕事を続けていきたい」

「必要なのは、育児や介護のための制度を利用しながらキャリアアップしていきたい」

「キャリアアップして、今までとは違うやりがいを感じたい」

「家事、育児は大変だから、出張や残業のない仕事に変えてあげよう」

「家庭優先だと、責任ある仕事は大変だろうから、昇進は難しいかな」

「女性はサポートが得意! マネジメント業務は苦手かな?」

かみ合わないそれぞれの原因は「無意識の思い込み」かも!?

「結婚・出産・子育てなどを理由に離職することなく働き続けたい」「もっと昇格・昇進して重要な役割を担いたい」という思いは、性別や年齢や立場に関わらず、多くの働く人たちが持つ意欲です。

「でもなかなか言い出せない……」そういう方も多いのではないのでしょうか。こうした悩みの背景には、無意識の 偏見や思い込みがあると考えられます。

例えば、「女性は家事や育児を優先しがち」「責任ある仕事に 女性は就きたがらない」「男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ」といった思い込みが、意欲の ある人々の成長を妨げます。

コミュニケーションによってお互いを理解すること、それが自分らしく働き続けられるカギになるかもしれません。

ここではコミュニケーションを大切に 組織を運営している企業の事例を紹介します。

## 事例2

垣根のないコミュニケーション  
相互理解から相互支援、それぞれの成長へ患者様ファーストのチーム対応  
職種や性別を超えて支え合う

「5年ほど前、仕事がうまくいかず退職を考えましたが、さまざまな経験をお持ちの田中さんから『辞めて何も変わらない、いろいろな視点をもって取り組みれば成長できる』と言われ思いとどまりました。この職場では多職種の職員がチームとなり、話し合いで情報共有しながら患者様を支えています。職種や性別を問わずコミュニケーションが取りやすく、仲良く助け合える環境です。見習いたい方ばかりで、周りから多くのことを学んでいます」

リハビリテーション部  
作業療法士  
碓山紗和さん理事・事務部長・  
企画運営局局長  
田中恭子さん幅広くコミュニケーション  
多様な気づきが職員の力に

「幅広い関係の中で、仕事の質を高めながら楽しく働いています。当院では、異なる部署や職種間で行う『メンター制度』を筆頭に、先輩・後輩が分け隔てなく話し合い、相互理解できる仕組みづくりを早くから進めてきました。また個人的にも交流会やビデオ作りなど、みんなを巻き込む工夫を凝らし、コミュニケーションを取りやすいようにしています。私はベガスグループが一つの大きなファミリーだと思っていて、職種や性別、立場に関わらず、身内のように接することができるよう日々のコミュニケーションを大切にしています」



社会医療法人ベガス 馬場記念病院  
昭和59年に西区で300床の総合病院を開業。「ベガス・トータル・ヘルスケアシステム」を掲げ、救命救急からリハビリ、在宅療養まで高度な医療・福祉を堺でトータルに提供する。



※撮影時のみマスクを外しています



## 「働く×ライフ×自分らしく」～堺ではじめるコミュニケーション～

堺市では多様な人材が活躍し、個性と能力が発揮できる社会の実現に向け、官民連携交流会「SAKAI Women's Active Meeting (SWAM(スワム))」がスタートしました。SWAMでは市内企業16社と市役所に勤める計24人の女性が、「女性の就労に関する課題」を話し合いました。特に「ワークライフ

バランスを重視した環境づくりを進めることが必要であり、それが進まない背景には、社会や家庭での男女の役割に対する「無意識の思い込み」が大きく影響しているという意見がまとまりました。更に、その解決策として「相互理解を促すコミュニケーション」が大切であると結論づけました。

詳しくは  
こちらからスワムで  
SWAMで  
誕生しました!!働く×ライフ×自分らしく  
～堺ではじめるコミュニケーション～

このキーマッセージには「全ての人の働き方、生き方を大切にしたい」という 思いが込められています。



## 全ての人が活躍できる社会の実現に向けて

全ての人が、それぞれに自分らしい生き方や働き方への思いを持っています。普段、何気なく自分が「そういうものだ」と思っている、相手は違うかもしれません。それぞれの思いに気づくためには、お互いを理解するためのコミュニケーションが大切です。

男女共同参画推進課  
参事(女性活躍推進担当) 濱伸子